

一般社団法人あいあいネット

年間活動報告

2022 年度(2022 年 7 月～2023 年 6 月)



一般社団法人あいあいネット
(いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク)
〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター内
Tel 050-3754-5971 URL: <http://www.i-i-net.org/>

1. いりあい交流

<インドネシアでの活動>

新型コロナのパンデミックは落ち着きつつあるなかで、2022年度もインドネシアとの実質的な交流活動は、休止状態となりました。日本から現地への渡航は可能となりましたが、インドネシア側・日本側どちらも、日常活動の復活・再生で忙しく、お互いの交流が難しい状況でした。そうした中で、中スラウェシ州パルで聞き書きに参加した若者たちが、津波の被災地でマングローブの植林を始めようとしています。これに対しては、メッセンジャー・アプリの“WhatsApp”を使って、日本からもフォローをしています。また、これは聞き書き参加者ではありませんが、愛媛大学や高知大学とインドネシアの大学が連携して学生のサービスラーニングを行っている SUIJI プログラムの参加者たちが、バリ島を訪問して、西バリの F2blest（後述）にお世話になり、食をテーマに実習をしました。さらに、2023年夏の SUIJI プログラムで来日したボゴール農科大学の学生が、ボゴール・コルニタ高校の出身で、聞き書きに参加したことがあって、こうした活動に関心をもったとのこと。聞き書きの輪は少しづつ広がってきていると思います。

<日本国内での活動>

滋賀県長浜市余呉町中河内集落の共有林において、火野山ひろば、滋賀県立大学、京都先端技術大学（旧：京都学園大学）、地元協力者とともに焼畑を主軸とした取り組みを、2009年より継続しています。2022年8月に行ったこの年の火入れがうまくいき、秋は豊作でした。また、火の山ひろばのメンバーの一人が琵琶湖の西のほうでカフェをしながら地域の人と焼き畑を始めようとしています。さらに、高知県の西の黒潮町で集落の共有地で火入れを再現しよう、という動きがあります。

2. 西部バリ国立公園周辺地域での活動

2023年3月まで、前年度に引き続いて現地 NGO の IINET（あいあいネットの現地専門家らが結成した団体）による「西部バリ国立公園周辺村における、地域に根ざした環境教育と若者ファシリテーター育成を通じた『子どもたちが生きいきと活動するカンムリシロムク保護村』つくり」プロジェクトが実施されました。あいあいネットは助成元の地球環境基金と IINET をつなぐ「代理人団体」として、現地での活動のフォローを行いました。なお、現地 NGO の IINET は 2022 年 10 月に法人化して、Yayasan FLORA FAUNA BUMI LESTARI (F2BLEST)（「持続する大地・生きもの・ひとの暮らし」）という団体になりました。プロジェクトの3年目となる 2022 年度は、これまで作成してきたカンムリシロムクの生態やゴミのリサイクル・堆肥化等を学ぶ環境教育シラバスが、ギリマスク村、ムラヤ村、エカサリ村のあわせて 7 校で試行されました。試行にあたっては、環境教育シラバス作成や環境保全活動に取り組んできた村人たちが「環境ファシリテーター」となって、各校での取り組みをフォローし、そのフィードバックをもとにシラバスの改訂作業にも取りかかりました。また環境学習に参加した子どもたちは、「ちびっ子ファシリテーター」となって、家の近くを飛び交うカンムリシロムクのモニタリングを行うとともに、日本からの訪問者（あいあいネットメンバー）を対象にカンムリシロムクの観察ガイド活動も試行しました。



ギリマヌク村の環境保全ファイターズの活動

さらに環境保全に関心のある住民グループのメンバーが「環境保全ファイターズ」として、土管を使った有機ゴミの堆肥化や地域の清掃活動、カンムリシロムクの餌となる実のなる木の苗木作り等も開始しました。

この活動をさらに発展させるために、
F2BLEST とあいあいネットは協力
して計画を策定し、地球環境基金から

の助成を得て、「インドネシア・西バリの自然保護地域周辺村における、環境教育と「体験型観光」振興を通じた住民主体の環境再生・保全活動」を2年間の予定で2023年4月から開始しました。この活動では、県行政の協力もとりつけながら、環境教育をより多くの小学校に広げるとともに、子どもたちやその保護者らの環境保全活動（ゴミのリサイクルやクリーンアップ、植樹等）を促進し、さらにこうした活動を「体験型観光」として訪問者へ提供できるようになることが目指されています。2023年4月～6月は、環境教育の実施校の他村への拡大や環境保全ファイターズの活動促進に注力しました。

3. 西バリと徳之島・佐渡島の子どもたちを繋ぐオンライン交流

インドネシア・西部バリ国立公園周辺村と、新潟県佐渡島、鹿児島県徳之島を結び、子どもたち（小学校高学年～中学生・高校生）による実践的な環境学習や自然観察・モニタリング活動の成果や課題について経験交流・学びあいを行うことで、地域の未来を担う子どもたちの「自然と共生した暮らし」への関心を高め、持続的な活動展開へつなげることを目的として、りそなアジア・オセアニア財団の助成を得て、3年間の予定でオンライン交流プロジェクトが始まりました。1年目の2022年度は、佐渡・徳之島・西バリそれぞれとの打ち合わせや準備（特にインターネット接続の状況確認や必要機材の確認、およびどんな内容でどのようにオンライン上で交流するか）に時間をかけた上で、2023年1月～2月にかけて徳之島～西バリ、佐渡島～西バリと繋いで実施されました。

まず2023年1月30日には、徳之島の天城町立兼久小学校5～6年生12名と、ジュンブラン県ムラヤ村クラタカン集落の「学び舎スマートキッズ」の小学生8名がオンラインで繋がり、徳之島側は自然、食べもの、生きもの、歴史について、西バリ側はカンムリシロムクの特徴や生態について、それぞれ学んだことを発表しあい、質疑応答をしました。続いて1月31日に同島の伊仙



兼久小学校でのオンライン交流の様子

町立犬田布中学校全校生徒 64 名と、学び舎スマートキッズの中高生 6 名とがオンラインで交流しました。犬田布中からは自然班、マンゴー班、塩づくり班、コーヒー班がそれぞれの学びを発表し、クラタカン集落からはカンムリシロムクの紹介と学び舎スマートキッズの活動について発表がありました。

佐渡島と西バリとのオンライン交流は 2023 年 2 月 7 日に佐渡市立新穂小学校 4 年生 15 名と、ジュンブラン県公立第 6 イスラム小学校の 4・5 年生 15 名が参加して行われました。新穂小からは小学校の紹介とトキについて学んだこと、第 6 イスラム小学校からはバリ島や小学校の紹介とカンムリシロムクについて発表がありました。

それぞれのオンライン交流では、各小中学校の校長先生や担任の先生方に大変お世話になりました、さらに佐渡では「トキどき応援団」、徳之島では「徳之島虹の会」の皆さま、そして西バリでは F2BLEST のメンバーに様々な調整をしていただきました。オンライン交流の機材設営・運営と司会、そして資料の翻訳と通訳はあいあいネットのメンバーが担いました。

4. 地域に学ぶ研修事業

本年度の JICA 横浜課題別研修「住民主体のコミュニティ開発」は久々の対面での実施が計画されていましたが、希望国がなかつたため、残念ながら休止となりました。

この研修は 2013 年度から実施されており、これまで数多くの国からさまざまな研修員を受け入れています。過去の研修員たちは、メッセンジャーAPIを通じて同じ代ごと、同じフィールドを訪れた人たち同士で情報交換・交流が行われていて、あいあいネットのメンバーもフォローしています。最近では、コソボから 2018 年に参加していた環境 N G O の女性からダイレクトメッセージがあり、研修での学びのおかげで政策提言活動につなげられたとのこと。また、スーダンの内戦状況のなかで、以前の研修員たちの無事を確認したりもしました。

5. その他の活動と組織・広報

- JICA 研修の受け入れ等でお世話になった、横浜市保土ヶ谷区の「千丸台地区社会福祉協議会」にて、Zoom による遠隔会議の実施講座を実施しました。
- コロナ禍のため前年に延期となった、明治大学ガバナンス研究科によるマレーシア政府のサラワク州公務員研修（横浜市鶴見区、東京都大田区、同墨田区、茨城県城里町、同笠間市、同阿見町の視察プログラム）に協力しました。
- 役員合宿を神奈川県逗子市にて行い、今後の活動の方向性等について話し合いました。
- インドネシアの長年の活動仲間である Elizabeth Rahyu Prihatini さん（エリス）が来日し、あいあいネットのメンバーと交流・情報交換・話し合いを行いました。